

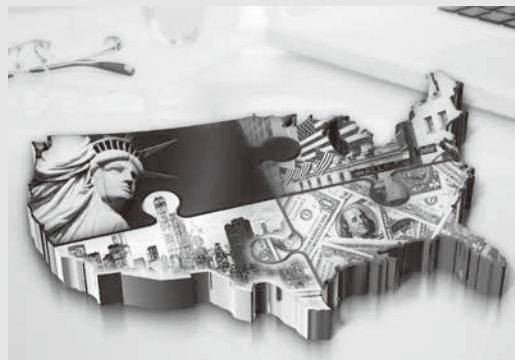
米国短期社債戦略ファンド

2017-03（為替ヘッジあり）

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：米短社1703

2021年5月28日から2021年9月21日まで

第 **10** 期 償還日：2021年9月21日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての社債等へ実質的に投資することで、安定した利息収益を確保するとともに、トータルリターンを獲得を目指して運用を行いました。ここに当期の運用状況等をご報告いたします。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

償還価額(償還日)	10,550円16銭
純資産総額(償還日)	655百万円
騰落率(当期)	+1.1%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
 受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

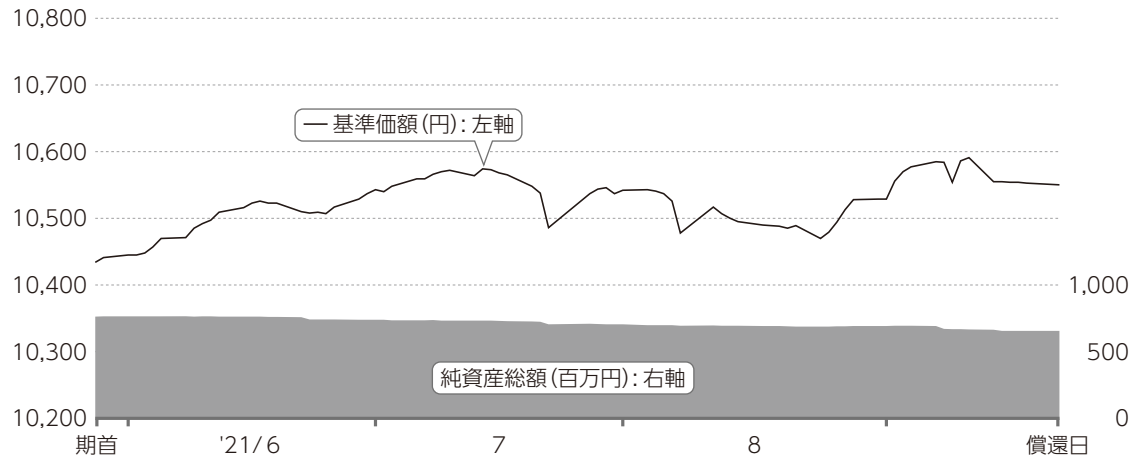
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について（2021年5月28日から2021年9月21日まで）

基準価額等の推移



期 首	10,434円
償 還 日	10,550円16銭
騰 落 率	+1.1%

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2021年5月28日から2021年9月21日まで)

当ファンドは、ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V.ゴールドマン・サックス・ショート・デュレーション・オポチュニスティック・コーポレート・ボンド・ポートフォリオ クラスI X Oシェアーズ(Cap MD i s t)への投資を通じて、主として米ドル建ての社債等へ実質的に投資を行いました。

上昇要因

- NobleやNabors、CCO等の組み入れがプラスに寄与したこと
- セクター別では、エネルギーセクターやコミュニケーション・サービスセクター、景気循環セクター（一般消費財・サービス）等への投資がプラスに寄与したこと

下落要因

- Diamond Sports GroupやWolverine Escrow、Royal Caribbean Cruises等の組み入れに加えてファンド全体の米国金利デュレーション*のヘッジポジションがマイナスの作用となったこと
- セクター別では、銀行セクター等への投資がマイナスの作用となったこと

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い(大きい)ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

1万口当たりの費用明細(2021年5月28日から2021年9月21日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	64円	0.608%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は10,526円です。
(投信会社)	(39)	(0.370)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(24)	(0.229)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.009)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	0	0.002	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(-)	(-)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(-)	(-)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	64	0.610	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

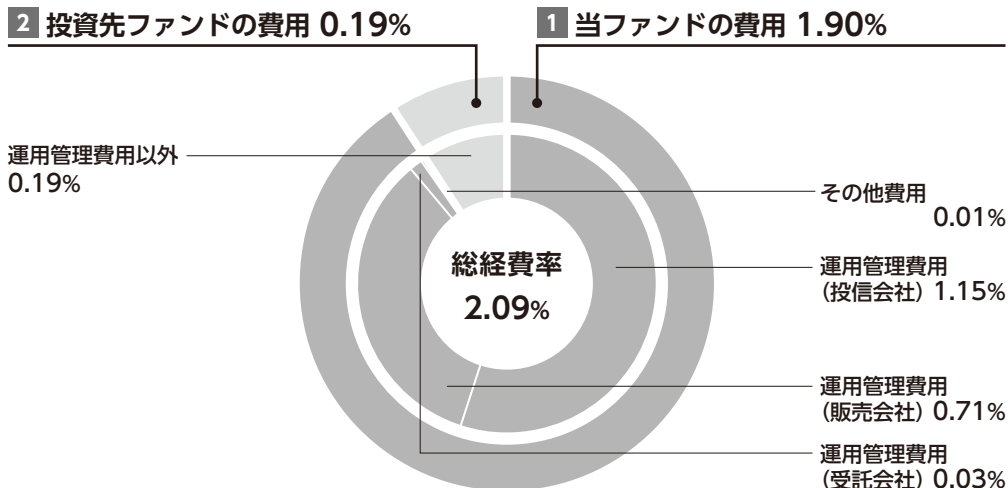
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1+2)	2.09%
1 当ファンドの費用の比率	1.90%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.19%

※**1**の各費用は、前掲「1万円当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万円当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

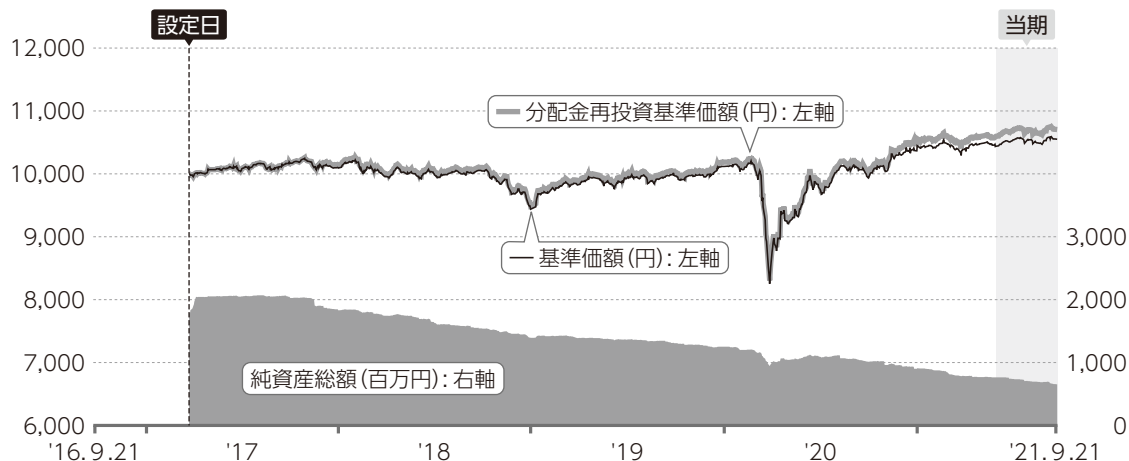
※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.09%です。

最近5年間の基準価額等の推移について（2016年9月21日から2021年9月21日まで）

当ファンドは、ファンド設定後5年間を経過していないため、設定日（2017年3月21日）以降の情報を記載しています。

最近5年間の推移



	2017.3.21 設定日	2017.5.29 決算日	2018.5.28 決算日	2019.5.27 決算日	2020.5.27 決算日	2021.5.27 決算日	2021.9.21 償還日
基準価額 (円)	10,000	10,081	9,962	9,842	9,537	10,434	10,550.16
期間分配金合計 (税引前) (円)	-	5	45	10	10	80	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	0.9	-0.7	-1.1	-3.0	10.3	1.1
純資産総額 (百万円)	1,783	2,055	1,714	1,372	1,075	763	655

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2021年5月28日から2021年9月21日まで)

社債市場

社債市場は、投資適格社債市場およびハイ・イールド社債市場のリターンは米ドルベースで共にプラスとなりました。

当運用期間中、投資適格社債のスプレッド(国債に対する上乗せ金利)は前期間末対比小幅に拡大した一方、ハイ・イールド社債のスプレッドは前期間末対比で縮小しました。他方、米国国債利回りは前期間末対比で、短・中期セクターが上昇した一方で、長期セクターは低下しました。

運用期間中、米10年国債について、F R B(米連邦準備制度理事会)のパウエル議長がインフレの上昇は一時的との見方を示したこと等を背景に、インフレ圧力に対する懸念が後退したこと等が利回り低下要因となりました。米国の社債市場では、中央銀行による緩和的な金融政策と、経済活動の再開に伴う景気回復への期待等が追い風となる中、利回りを求める投資家からの資金流入が継続したこと等を背景に、ハイ・イールド社債のスプレッドが縮小する展開とな

りました。

なお、F R Bのパウエル議長は2021年8月27日に開催されたジャクソンホール会議(米カンザスシティ連銀主催の年次経済政策シンポジウム)にてオンラインで公演し、F R Bが目標とする雇用の最大化と物価の安定の達成に向け、さらなる進展が見られた場合には、年内にテーパリング(量的緩和の段階的縮小)を開始するのが妥当との見方を示しました。一方で、足元のインフレ上昇は一時的との見方を改めて示し、政策金利の引き上げについては急がない考えを明言しました。

国内短期金融市場

国内短期金融市場は、マイナス圏で横ばいの推移となりました。

国内短期金融市場では、期首-0.13%近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、-0.10%~-0.15%内での動きに終始し、-0.11%近辺で償還日を迎えました。

ポートフォリオについて（2021年5月28日から2021年9月21日まで）

当ファンド

主要投資対象であるゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V.ゴールドマン・サックス・ショート・デュレーション・オポチュニスティック・コーポレート・ボンド・ポートフォリオ クラスIXOシェアーズ(Cap MDist)を運用期間を通じて組み入れました。また、為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指しました。その後、2021年9月の償還に向けて売却し、2021年9月21日に満期償還いたしました。

ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. ゴールドマン・サックス・ショート・デュレーション・オポチュニスティック・コーポレート・ボンド・ポートフォリオ クラスIXOシェアーズ (Cap MDist)

当ファンドは社債市場の多くの投資家が

持っている格付けに関する制約やベンチマーク運用に伴う制約により、割安に放置されている投資対象を発掘し、最良のリスク調整後リターンを追求し、かつ、資本構成全体を分析することで、社債市場における数多くの資産クラスの中から優れた投資機会を獲得することを目指した運用を行いました。

運用期間のポートフォリオのリターンは、米ドルベースでプラスとなりました。2021年8月末時点の組入比率については、社債が約88%、現金等が約12%となっています。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

ベンチマークとの差異について（2021年5月28日から2021年9月21日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2021年5月28日から2021年9月21日まで）

償還のため、該当事項はございません。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

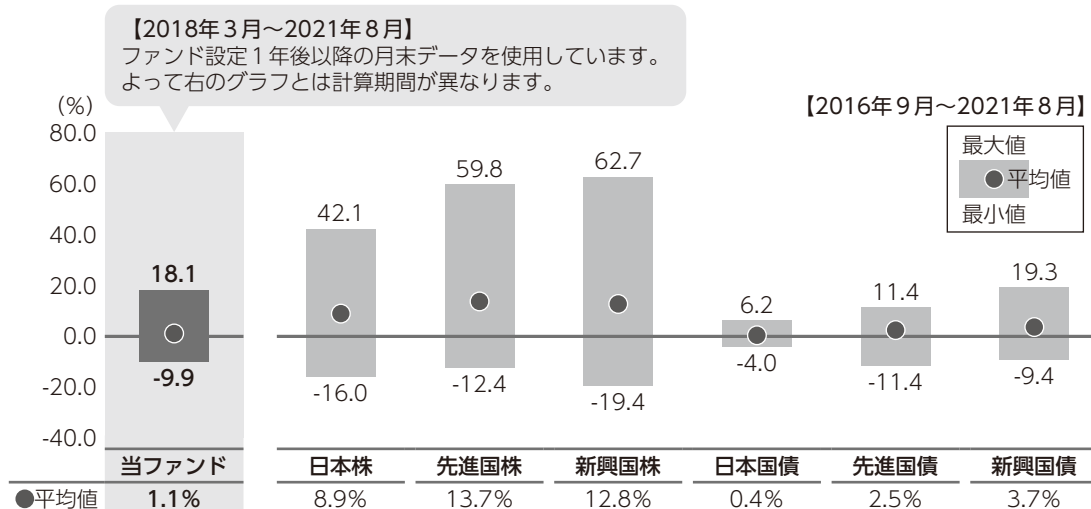
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信/海外/債券
信 託 期 間	2017年3月21日から2021年9月21日まで
運 用 方 針	投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての社債等へ実質的に投資することで、安定した利息収益を確保するとともに、トータルリターンの獲得を目指して運用を行います。
主 要 投 資 対 象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>ゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. ゴールドマン・サックス・ショート・デュレーション・オポチュニスティック・コーポレート・ボンド・ポートフォリオ クラスIXOシェアーズ(Cap MDist)</p> <p>主に米ドル建ての社債等</p> <p>キャッシュ・マネジメント・マザーファンド</p> <p>本邦通貨建て公社債および短期金融商品等</p>
当 ファ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■投資信託証券への投資を通じて、米ドル建ての社債等へ実質的に投資し、安定した利息収益を確保するとともにトータルリターンの獲得を目指します。 ■指定投資信託証券は、米ドル建ての社債等を主要投資対象とし、運用はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー (所在地：米国ニューヨーク)が行います。 ■運用にあたっては、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社から投資助言を受けます。 ■組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年2回(原則として毎年5月および11月の27日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX (配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。
先進国株	MSCI コクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI (国債) 野村証券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

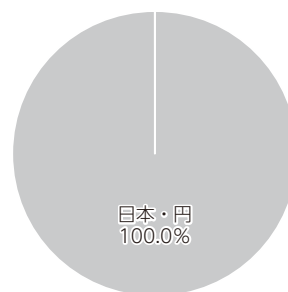
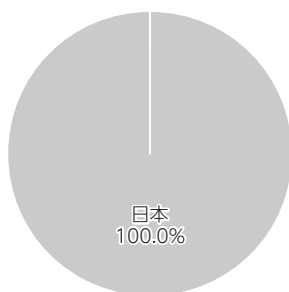
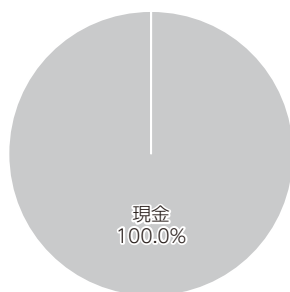
6 当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容(2021年9月21日)

組入れファンド等

償還日現在の組入れはありません。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目		第10期末 2021年9月21日
純資産総額	(円)	655,265,959
受益権総口数	(口)	621,095,571
1万口当たり基準価額	(円)	10,550.16

※当期における、追加設定元本額は191,043円、解約元本額は110,847,462円です。

7 償還を迎えて

当ファンドは、2021年9月21日に償還となりました。

皆さまのこれまでのご愛顧に御礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをお引立て賜りますよう、お願い申し上げます。